

四万十清流タイムズ 第8号



四万十高校学校新聞

平成 27 年 7 月 16 日発行

夏だ!部活だ!新キャプテンに聞こう!

ということで新体制となった体育系部活動のキャプテンにインタビューしてみました。

・名前と出身中学校を教えてください。



榎野凌介 (以下榎野) : ソフトボール部キャプテンの榎野凌介です。北ノ川中学校出身です。

和田祥英 (以下和田) : バスケットボール部キャプテンの和田祥英です。大正中学校出身です。

伊藤季咲 (以下伊藤) : バレーボール部キャプテンの伊藤季咲です。昭和中学校出身です。

・3年生が引退して1・2年生だけの新チームとなりましたが、雰囲気はどうですか?

和田: バスケ部は大きく雰囲気は変わらないですね。常に平常心をこころがけてますんで。

榎野: ソフト部は元気いっぱいですね。特に1年生。

伊藤: 1年生との距離も近いし、雰囲気はいいと思います。

・現在何人で活動してますか。

榎野: ソフト部は6人。2年2人の1年4人。マネージャーもいてくれて1年生と2年生に1人ずつです。

和田: バスケ部は2年生が5人で1年生が1人。

伊藤: バレー部は1年生が2人で2年生が4人です。もう1人入部してくれそうな話もあります。



・新チームのいいところはどんなところですか。

和田: 1人1人が個性的です。

榎野: うん、ソフト部も。

和田: まとめるのが大変です。

・キャプテンとしては責任もありますから大変だと思います。バレー部はまとまっている印象がありますが。

伊藤: うん、そうですね。まとまっていますね。同じ中学校出身も多くて。やりやすいです。お互い注意

し合ったりしてます。

・目標や憧れの選手っていますか。

和田: 「この人が」っていうのはないですね。NBAとかいろんなものが違いすぎてますし。

榎野: 僕も特にはないですね。

伊藤: 私も。

・バレーやバスケはテレビで中継もありますか。

伊藤: バレーとバスケがあったらバスケ見ますね(笑) 見たりしてるよりはプレーする方がいいかな。(一回うなずく)



・最後にこれからの意気込みや目標をお願いします。

和田: 「声出して、楽しくやろう」

っていうのはありますね。チームの共通認識として。

榎野: 「1勝でも多く」ですね。1つ1つを積み重ねていきたいです。

伊藤: 「身だしなみや礼儀をきちんとすることで結果が生まれてくる」と考えて頑張ってます。

夏休みから2学期初めにかけて各部活で大会が控えています。夏休みの練習の成果が試されます。1勝でも多く積み重ねてほしいと思います。

インタビュー 広報委員長&ソフト部マネージャー 榎本瑞季

2年生になって

自然環境コースでは2年生になり、農場での授業が始まりました。1学期だけでも作物を作るために多くのことを学びました。いちばん作業の中で大変だったことは、うねを作る作業でした。体力には自信があったのですが、1時間もすると手が痛くてマメができそうでした。近所のおじいちゃんやおばあちゃんがこんなに大変な作業していることに驚きでした。

農場での授業は大変なことだけでなく、楽しいことや、喜びを感じることもたくさんありました。まず、何かが育っていくということはとてもうれしい





ことです。自分の育てる野菜ができて人に食べてもらえたときの喜びは本当によいものです。私が農業をやってみようと思った理由の一つはこれです。

私は野菜が好きではなかったのですが、汗水流しながら

育てた野菜はとてもおいしく、感動しました。店で売られている野菜なども自分と同じように、もしくは自分より大変な思いをして育てたものだから、作っている人の気持ちを考えながら苦手なものも食べていこうと思いました。

販売実習にも行き、皆さんが想像した以上に買ってください、私の祖母も買ってくれ、とてもうれしかったです。苦労して育てたかいがあったと思います。2学期からの授業も今まで以上に頑張っていきたいです。 報告者：自然環境コース2年 田邊涼吉

土砂災害や洪水から身を守ろう

いよいよ夏休みです。生徒の皆さんは普段の学校生活では体験できないことに挑戦し、楽しい思い出をたくさんつくってください。この休み中は夏らしい太陽の輝きと満天の星空が満喫できる日々であってほしいものですが、近年の夏の気象を見る限りでは「極端な・・・」と表現されることが多いように感じます。「・・・」の中に入る文言としては「豪雨」や「長雨」、あるいは「高温」などをあげることができます。いうまでもなく、気球温暖化による異常気象がこのような気象状況をつくりだしていますが、異常気象を他人事として片づけられなかったのが昨年の四万十町で発生した災害でした。

昨年の8月10日、台風10号の影響により四万十町窪川を流れる吉見川が氾濫し、160棟を超える住宅などが床上浸水の被害を受けました。また、同じ時期に町内の他の地域でも浸水があり、がけ崩れも数カ所で発生しました。人命被害には至らなかったものの、一歩誤れば大災害となった可能性があります。この災害は私たちの地域でも全国ニュースとなるような大規模災害が発生する可能性があることを表したもので、今後の教訓としていかなければならないことです。

ところで皆さんは「いざ」という時の心構えはできていますか。また、その時々において自分が状況を見てどのような判断をするべきかを考えたことがありますか。集中豪雨や地震が登校中に発生した時、車に同乗している時、あるいは家の中にいる時など、あらゆる場面のことを想定した危機管理対策を自分自身で確認しておきましょう。また、ご家族の方とも話し合っって危険を知らせる体制（たとえば、豪雨の際に土砂災害が発生する前兆があった場合、どうやって家族にそれを知らせるか）をとることも大切です。

もう一度昨年のお話に戻りますが、広島市で発生した大規模な土砂崩れで難を免れた人の話の中で、「高校生の子が豪雨の中で異常な音を感じ、それを大声でみんなに知らせてくれた。あの時、それがなければ私たちは家とともに押し流されていたかもしれない」という言葉がありました。日頃の危機管理意識が家族の尊い命を救った例です。

各市町村から配布されている冊子や6月に学校から皆さんに配布した「高校生のための防災ハンドブック」を手元において、大切な部分をもう一度読んでおくとともに、最寄りの避難場所の確認を欠かさずにしておいてください。 教頭：中津吉弘



編集後記

この号を編集している真っただ中、台風11号が近づいてきています。いろいろと影響が考えられますが災害等、起こらないでほしいものです。

さて、まもなく夏休みです。長い夏休みの過ごし方で2学期以降が大きく変わってきます。実りの多い夏にしてください。

企画・編集

四万十高校生徒会 広報部

お問い合わせ窓口：四万十高校総務部

メール shimanto-h@kochinet.ed.jp

ホームページ <http://www.kochinet.ed.jp/shimanto-h/>

電話 0880-27-0034 FAX 0880-27-0477

学校ホームページも随時更新中。ぜひQRコードからアクセスしてご覧下さい。

